

# デンマーク体操の歩み (2)

—19 世紀末～20 世紀初頭—

高井久光      工藤亘

玉川学園・玉川大学

健康・スポーツ科学研究紀要

第 15 号

## ■研究資料■

# デンマーク体操の歩み (2)

-19 世紀末～20 世紀初頭-

高井久光\*<sup>1</sup> 工藤 亘\*<sup>2</sup>

### 要約

19 世紀末から 20 世紀初頭におけるデンマークへのスウェーデン体操の導入の経緯やその発展についてまとめた報告である。

### 1.スウェーデン体操の導入

1882 年にストックホルムで体操祭が開催された。この体操祭に参加したデンマーク人教師ラスムッセンとベントセンは、スウェーデン体操を見て、その素晴らしさに感激した。翌年、ラスムッセンはスウェーデンに留学し体操を学び、帰国後ただちに学生たちの指導を始めた。一方、ベントセンはヴァレキルデホイスコーレに新しい練習場を建設する事業に取り掛かった。この新しい練習場で 1884 年 2 月 25 日に披露されたスウェーデン体操はその後のデンマークにおける体操に大きな影響を及ぼすことになった。この体操発表を見た観衆の一人アスコウホイスコーレのクア教授(数学・物理学者)は、スウェーデン体操にすっかり感激し、早速スウェーデン人体操教師 C.H.ノーランダー大佐に体操講習を依頼した。この講習に応募したデンマーク人男子 12 名は、ノーランダー大佐指導の下で 1885 年夏2ヶ月間スウェーデン体操を学び、後にノーランダー十二士と呼ばれるほどスウェーデン体操の普及にパイオニア的な活躍をした。

スウェーデン体操は、詩人であり作家そして体操家でもある P.H.リングが科学的な考察に立脚し創始した体操である。リングは、「真の体操教育は身体と精神の両方を対象とすべきである。身体が必要とするものは解剖学や生理学などの自然科学によって、また精神が必要とするものは歴史・詩・美学などを通じて解釈しなくてはならない。」と述べている。リングの体

操は次の四つのカテゴリーに分けられている：

1) 病理・医療体操、2) 教育的体操または健康体操、3) 美学的体操、4) 軍隊体操または闘技体操。このシステムはすべての人、つまり病人から健康人そして最も優れた体操家までを対象としている。スウェーデン体操の画期的な特徴は、鉄棒や平行棒を使った運動のように身体を決まった動きに合わせるのではなく、人の身体に合わせた体操を主張したことである。ノーランダー大佐の言葉を借りれば「身体を力強く美しくすることを目的とした練習以外はスウェーデン体操に取り入れられない」ということである。

実は、スウェーデン体操はリングの教え子 C. ニュカンダーによってヴァレキルデでの発表の二十数年前にデンマークに紹介されていた。彼が 1861 年にコペンハーゲンに設立したスウェーデン体操研究所は、特に女子体操に影響を及ぼした。スウェーデン体操は、ニュカンダーの勧めで、N.ザールが創立した女性のための学校に取り入れられた。ここの必修科目に体操が取り入れられたのは 1864 年である。コペンハーゲンに在る他の多くの女性のための学校もニュカンダーの影響を受けた。しかし、スウェーデン体操のデンマークでの発展に決定的な影響を及ぼしたのは 1884 年 2 月 25 日のヴァレキルデホイスコーレでの発表に続く多くの出来事である。ノーランダー十二士の多くはフォルケホイスコーレの体操教師として学校での指導はもとより射撃隊におけるスウェーデン体操の発展に大きな貢献をした。前記のヴ

\*<sup>1</sup> Århus 大学 \*<sup>2</sup> 玉川大学

アレキルデに於けるスウェーデン体操の発表の前後には講演と合唱があった。講演と歌と体操はフォルケホイスコーレや射撃協会における基本要素であった。講演の内容は歴史や北欧神話から農業技術に関する話まで幅広く、フォルケホイスコーレや射撃協会の活動は、まさに精神的な世界と物質的世界と体操を包容するものであった。

ノーランダーの他にも幾人かの男女がスウェーデンに留学し体操指導者の教育を受けた。1884年以降は、ヴァレキルデホイスコーレやアスコウホイスコーレなど幾つかのフォルケホイスコーレでスウェーデン体操の指導者養成コースが設けられた。フォルケホイスコーレでの体操指導者コース修了者には小隊指揮官 (delingsfører) という称号が与えられた。小隊指揮官は、それぞれが所属する地域社会でボランティア体操の発展に貢献することを期待された。

農民指導者たちの体操に対する認識が、19世紀を通じて「不必要であり時間の無駄」という否定的な考えから「体操は農民にとっても重要である」という認識に180度転換した理由は何であろうか。王の軍隊が、軍隊体操に対する農民の否定的な態度をまねいたことは明らかである。王の軍隊を廃止し、国民軍を創る可能性が見え始めた時に農民の体操への意思が変化した。これらの要因に加え、19世紀後半に始まる自営農家の生活水準向上が若者に農作業以外にも自分の身体を使う余裕を与えたことも体操が普及した大切な要因である。農村に体操が普及するにつれ、体操指導者や農業指導者たちは、スウェーデン体操は農業による重労働から生じる身体の不調和や障害の予防・矯正に有効であり、かつ活動的な休養を与え農業生産活動や農村青年の人格形成にも効果があると認識するようになった。しかし、小作業や日雇い農業労働者は、毎日の食事を確保するために身体をすり減らして働かなくてはならず、体操をやるほどの余裕を持ち

得なかったし、体操の必要性も認めようとしなかった。

1899年、新しい体操指導書が大体操委員会によって出版されたがその内容のほとんどはリングの原理に基づくものであった。同じ年に、この体操指導書は学校に於ける正式な指導書として認められた。また、デンマーク射撃協会においても体操の基本として取り入れられた。1901年に政権を勝ち取った自由党の大蔵大臣 J.C.クリステンセンや W.H.O マッセンは、スウェーデン体操をデンマークに紹介したラスマッセンが指導する朝の体操に先頭に立って参加したといわれる。

## 2.デンマークにおけるスウェーデン体操の発展

スウェーデン体操の急速な発展からドイツ体操の影響を受けたデンマーク体操を守るためにデンマーク体操連盟 (DGF) が 1899年に結成された。同連盟は、1900年ヨーロッパ体操連盟に、そして1904年にはデンマーク体操連盟に加盟した。このことにより、デンマーク体操はアテネで1906年に特別開催されたオリンピックへの参加権を得た。デンマークは男女体操チームを派遣し、特に女子の体操チームは大きな反響を呼んだ。しかし、このことを知ったスウェーデン体操の擁護者たちは、デンマークは国民の体操であるスウェーデン体操を発表すべきであると反発し、1908年に開催されるロンドン・オリンピックへ参加する体操チームの決定はデンマーク体操連盟ではなくデンマーク射撃協会がすべきであると主張した。

この頃、イギリスにおいても陸軍と海軍そして学校の正式な体操としてスウェーデン体操を取り入れようとしていた。デンマーク射撃協会はイギリスとの繋がりを利用してオリンピックへの招待状を、オリンピック・コミッティーに対してだけでなく、デンマーク射撃協会へも取り付けた。しかし、参加できるのは1チームだけである。チーム結成のためにデンマーク体操連

盟とデンマーク射撃協会が協力できる関係にないため、競技によって参加チームを決定することになった。デンマーク体操連盟が勝利をおさめたが、多くの論争の原因となった。デンマーク体操連盟から派遣されたチームは試合に参加したものの、優勝したスウェーデンチームは勝利を勝ち取ったのではなく与えられたのだ、と主張した。デンマーク射撃協会の体操チームはロンドン・オリンピックの試合には参加できなかったがデモンストレーション・チームとしてオリンピックに参加した。

1912年のオリンピックはリングの母国スウェーデンで開催された。デンマーク体操連盟は、デンマーク体操はスウェーデンでは公正に評価されないとして参加を拒否したため、スウェーデン体操の擁護者たちにオリンピック参加のチャンスが与えられることになった。代表チームは、S.ベントンセンが率いる女子チーム150名とV.クリステンセンが率いる男子チーム400名、そしてN.ブックが率いる競技チーム28名であった。二つの大チームは大きな反響をよんだ。ブックの率いる競技チームも健闘し銀メダルを獲得した。このオリンピックにおいて、1884年に始まるデンマークにおけるスウェーデン体操はその最高潮に達したのであった。デンマーク国立体操学校の初代校長クヌーセンは、オリンピック・スタジアムに出て「スウェーデンとその体操に感謝します。リングの国万歳！」と感謝の言葉を述べている。

クヌーセンは、デンマークにおけるスウェーデン体操の発展に大きな貢献をした一人である。彼は若いときから体操に興味を持ち、アスコウホイスコーレのクアア教授の影響を受けた。1855年にはノーランダー十二士の最年少者としてスウェーデンで体操を学び、1889年には、一年間ストックホルムに留学し王立中央研究所で体操教育を受けている。体操委員会として体操指導書の編集、デンマーク国立体操学校長、体操インスペクターなどを通じてスウェーデン体操の発展に貢献した。彼は、学校

体操とボランティア体操そして高等教育のまとめ的な役として、農民政党である自由党が1900年から1910年に遂行した学校体操改革で中心的な役割を果たした。1910年代に台等するイギリスのスポーツに対して、彼はスウェーデン体操の優位性を主張したために非難もされたが、自由党やフォルケホイスコーレそして射撃協会はクヌーセンの主張を支持した。都市ではスポーツが急激に発展したが、農村と学校と軍ではスウェーデン体操が維持された。一方、デンマーク体操連盟の支持するデンマーク体操は鉄棒、平行棒、リング、床運動などを種目とする国際競技へと変化していった。

### 3.ビヨクスタインの体操

1912年オリンピックに参加したフィンランドチームを率いるE.ビヨクスタインの体操はその後のデンマークにおけるスウェーデン体操の発展に決定的な影響を及ぼした。彼女の体操は“動きの体操”であるという点でそれまでのスウェーデン体操と明らかに異なった。デンマーク政府は、1913年に彼女を招聘し講習会を開催した。ビヨクスタインは、スウェーデン体操の支持者であったが「それは、その時代に即して構成されなくてはならない」と主張した。条件が変化すれば、体操も変化しなくてはならない。

体操は、次の三つの要因を常に考慮しなくてはならない。その第一は、生理学的知識の変化、第二は人の生活条件の変化と文化前線の変化、そして第三は、男性と女性の社会における関係の変化である、と言っている。そして、次の三つの点を強調した。女性は女性の体操をすべきである。体操は、動きの体操でなくてはならない。そして、体操は審美的な要求に従わなくてはならない。彼女のこの主張は実行され、女子体操は独自の基盤を得たのである。

動きの体操は特に若者に支持を得た。そして、ビヨクスタインの体操は1950年頃までの体操を担ったオレロップ体操ホイスコーレとスノー

ホイ体操ホイスコールの出発点となった。

### 参考資料

1. Gyldendalsstoreopslagsdog, 1970: Gyldendalske Boghandel, Noesiak Forlag A.S., Copenhagen, ISBN 87 00 32604 6
2. 百瀬宏 (1980)、北欧現代史、世界現代史 28、山川出版社
3. Lademannsleksikon, 1981: Lademann Forlagsaktieselskab, Copenhagen, ISBN 87-15-06048-9 BD1-22 ar. Gyldendalske
4. Ove Korsgaard, 1982: Kampen om kroppen - Dansk idratshistorie gennem 200 Boghandel, Nordisk Forlag A/S, Kobenhavn, ISBN 87-0031168-5